



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第33回)



一般財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 許されないサインのカンニング

今夏の甲子園大会で、二塁走者が捕手のサインや動きを打者に知らせる「サイン盗み」をしていた疑いを指摘され注意を受けていたようですが…。

盗もうとした意志の有無、その後の結果は関係なく、何よりも紛らわしい行為は慎むべきで、言い訳や反省だけでは済まされません。1996(平成8)年夏、選手権大会の先発メンバーが渡米した時のことです。二塁走者が捕手のサインを打者に伝えるのを見て、審判から注意を受けました。当時の日本の野球では日常的な場面ですが、「スパイ行為にも等しいアンフェア」を指摘されたのです。一・三塁のコーチにも同様の指導がありました。国際大会への参加が増え、関係者による野球後進国への指導体制を整える中で、本来のベースボール、そのスポーツマンシップを確認する大きな出来事だったと言えるでしょう。1998(平成10)年12月、日本高野連から「マナーの向上」の指導事項として全加盟校に通知されています。(禁止事項要約)

- ① 投手の準備投球時に、次打者などが打者席付近でタイミングを測る行為。
- ② 走者やベースコーチなどが、捕手のサインを見て打者にコースや球種を伝える行為。
- ③ ベースコーチが打者(走者)の触塁に合わせて『セーフ』のジェスチャーとコールをする行為。

通知から15年、時にグラウンドで審判から注意されるのを見受けます。③については、17回(平成24年6月掲載)の本ページで詳しく説明しました。

何か新しい課題に向かうとき、思わぬ時間を要することがあります。反対に大切なことでも、「しない」と思えばたちまち出来なくなることを思えば、「してはいけないことを“即、しない”と見切ることこそ、スポーツマンの勇気でしょう。



ルール編 高校野球で使用できるバット

前回に引き続き、大切な道具の点検について確認しましょう。「高校野球特別規則1」規定の使用できるバットは次のとおりです。

- ① 木製バット
- ② 木材の接合バット
- ③ 竹の接合バット
- ④ 金属製バット

特に、金属製バットに関して次の2項が記されています。

ア) 金属製バットは製品安全協会のSGマーク(右図参照)が付けられているものとする。

イ) 大会での使用は音響対策品に限る。なお、音響対策品は、グリップ上部の製造年月略号の次に「S」を表示してある。ただし、平成13年度秋季大会から使用が制限される新基準品は、「S」に替わって新たに「N」(ニュースタンダードの略)を表示してある。



SG マーク

以下、色彩などを含め、規則1・10に関する規定です。(省略)

点検の不備で使い慣れたバットが使用できなくなると、試合に影響が及ぶこともあるでしょう。規定の内容を理解し、他の用具ともども万全の点検を怠ってはなりません。

県下の加盟校に届けられている「高校野球審判の手引き」には、「高校野球特別規則」「高校野球用具の使用制限」が全て掲載されていますので詳細を確認してください。(日本高野連のホームページでも参照することができます。)